

5番（中村 充男君） 5番、中村充男でございます。

このたびの台風12号で被災されました方々に、衷心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます次第でございます。

また、国難とも言えるこの未曾有の東日本大震災から6カ月、まもなく半年を迎えるわけでございますが、被災地におかれましては、私たちが見ているテレビに映らないところで大変なご苦労があり、また、目に見えない放射能で大変な戦いをなさっておられる方々がまだまだ数多くおられます。一日も早い復旧復興と原子力発電所のあいつた災害をおさめていただくように、心よりお願いを申し上げます次第でございます。

そんな中、国会におきましては、相も変わらず権力闘争の繰り返しでございまして、我が国の総理大臣を選ぶにも、政策よりコストが優先をいたしておりました。残念なことに、このような事態においては、年間320億円とも言われております政党交付金を、今年度に限っては復旧復興に回そうという議員は、だれ一人とおりませんでした。ただ、無所属の国会議員7名と、党では共産党が唯一受け取り拒否をされております。

企業団体献金禁止を名目に、こうした政党助成金、交付金というものを決めたにもかかわらず、まだまだ企業や団体から献金を受けている現状、共産党は有権者への裏切りとして廃止をせよと、こういう主張をされております。共産党は助成金・交付金を受け取っておられませんが、これもまた残念なことに、共産党が受け取らなかったお金が国庫に戻るかと思えば、ほかの党でまた山分けでございます。一体どうなっているのか。

この政党交付金には使い道の制限がなく、余れば返納しなければならないことになっているものの、さまざまな抜け穴がありまして、基金として積み立てて、翌年以降に繰り越したり、途中で新進党、自由党のように解党して、党首や個人的な政策集団に移し変えるなどして、はなはだ金の流れが不透明でございます。

国会議員になればいろいろな特権があり、最低でも、大臣にならなくても歳費は年間約3,430万円、そのほかJR全線無料、しかも特急、グリーン車もOKです。航空機に至っては、月4往復まで無料。しかもあの赤坂にあります議員宿舎は民間であれば3LDK、月約50万円ほどの家賃の相場であります。国会議員は9万2,000円で占有しているのです。

被災地の皆さんが不自由で、本当に困っておられる今、また全国民の中から、自分たちのできるだけの支援に力を注ごう、諸外国からも物心両面にわたってご支援やら温かいメッセージをいただいている、こんな時に復興税やら消費税増税やら、たばこ税を上げる、こういうことを言う前に、年間320億円もの政党交付金をぜひとも復旧復興に回していただきたい。そう心から切に切にお訴え申し上げ、大変長い前置きでございましたが、本題に入らせていただきます。

まず1つ目、本来は町長にお尋ねするべきところではありますが、これは町長就任前のでき事でございますので、副町長にお尋ねをしたいと思えます。

公共施設・公共物の発注について。公共物・公共施設等の買付けや建設等における発注とその責任についてということでございます。

先般の津波で破壊されました福島の第一原発の1号機であります。あれはアメリカの企業が中心になって建設されたと聞いております。先般、本を読んでおりましたら、日本は上得意だと。あの1号機にかかわった建設会社が、アメリカでああいう原発をつくって不具合、不合理が起きてくると徹底的に修復をさせられる。ちょっとももうからん。ところが日本においては、不具合ができればすぐ追加予算を入れて、次から次へ追加発注してくれると、こんなありがたい国はないと、このように書いてありました。えっ、びっくりする内容でございました。

ところがこの東員町に目を向けてみますと、このスケールが小さくなったことが次から次へ起きている。まず第一に笹尾西小学校のプールであります。これは改造か、新設か、いろんなことがありました。いよいよ新設ということになって、全部壊してまたやり直しをいたしました。

あの業者でございますが、東員町と1回も取り引きがない。1回も取り引きのないところに1億円以上の契約をする。私はその当時、それで大丈夫かと何回も申し上げました。ところがそこに落札をされまして、工事をした。完成してから小学校のトイレの水が流れていかないということで、どういうことか。今度は町内の業者にそれをやらせたら、このプールの排水が問題であった。いろんなところから色のついた水を流し、どうなっているか、研究に研究を重ねた結果、新しくつくったプールが問題であった。

私は当時、副町長にも非公式ながら、その時に要ったお金は、元請けの業者に戻してもらわなければならないということを言いましたが、いやいや、これは町で問題があったんやで、これはこれで払いましょうということ言って払ってしまわれました。その四日市の業者は四日市で指名を外され、鈴鹿へ行って鈴鹿もだめ、桑名へ来て桑名もだめ。今、パンクして形もない業者でございます。

そして先般の6月議会で見回りしました笹尾第二保育園、笹尾東幼稚園、ここは園児の脱いだ靴やスリッパが雨降りに濡れてしまう、だからテラスをつけてほしい、こういうことでもございました。まだできたばかりの1億円以上かかった保育園。園舎を見に行きますと、廊下に新聞やらビニールシートを置いて靴が並べてある。そしてその靴の脱いだすぐ脇から給食の配膳室に入っていくようになっている。これは何たることか。

そして視察に同僚議員が皆さん行かれた時に、先生も先生で、賢い先生です。児童園児を並べて「よろしく願います」と。自分の孫やひ孫みたいな子が「よろしく願います」と、こう言えば、もうどうしても審査もへたたくれない。

これはかわいそうや、つけたらなあかんで、こういうことになりました。

そしてこの補正予算で見ていきますと、概要書にいろいろ書いてありました。この中に1つ、保育園施設整備費、笹尾第二保育園園舎改修工事、514万円、そしてもう1つ、ページ数は飛びまして、幼稚園施設整備費、笹尾東幼稚園園舎改修工事、514万円、2つになっている。幼稚園の金と保育園の金と別々だということをお願いのかわかりませんが、ふっと見てもらうと、514万円のできるのかな。これは別々のところかなと思うと、今、保幼一体化でございまして、1つのところに保育園も幼稚園も入っている。それなのに1,028万円のテラス。

そして私たちは幼稚園を壊す前に、あそこへしたらどうかと言っていた笹尾西小学校の前の学童保育、バンブーキッズの場所でございますが、3,000万円ほどかけてつくられました。それも同じ日に視察に行きました。濡れ縁といいますが、濡らそうと思わなくても濡れてしまう縁側がついている。これも雨ざらし。木を見るとヒノキでもなく、これは2年ぐらいで腐ってしまうんじゃないか、これはテラスが要るわなと眺めてきました。

そして私、2～3日前に両方もう一回見てまいりました。そうしましたら、学童保育所には立派なテラスがもうついておりました。幼稚園・保育園のほうへ行きますと、まだ何もついていない。6月に予算が上がっているのにまだついていない。夏休み中に工事すべき問題じゃないか。どうなっているんですか。一体、あの保育園・幼稚園を設計した設計士が悪いのか、だれが発注されたのか。町長が発注したのか、何が発注したのかわからないけれども、すぐに不具合が見つかって靴箱が濡れてしまうような園舎、だれが発注するんですか。そしてまだついていない。

自分の家を注文するときには、ここには3尺ぐらいのひさしをつけてほしい、裏口やけど、こんなことをしてほしい、ああしてほしい、こうしてほしいと住宅会社に言うでしょう。それが、これは人の金と思いきや、税金でございますが、発注して、あかんかったらもう一つ発注、追加発注。これは一体だれの責任ですか。

副町長、お答えいただきたいと思います。

議長（山本 陽一郎君） 安藤副町長。

副町長（安藤 修平君） 中村議員の公共施設・公共物の発注についてのご質問にお答えをさせていただきます。

まず基本的な事項について、お答えをさせていただきます。

地方自治法の改正によりまして、平成19年4月1日から市町村の助役が廃止され、新たに副市町村長制度が施行されました。町長の権限に属する事務の一部において委任を受け、その事務を執行することができることが、新たに規定をされました。

この改正の目的は、地方公共団体の所管する行政分野や事務事業が大幅に拡大したこと、また、地方分権により地方公共団体の役割と責任が広がっていること等か

ら、町長の事務の一部を副町長に委任することによりまして、町長のマネジメント機能を強化しようとするものでございます。本町におきましては、平成19年8月から入札に関する事務が私に委任をされております。

具体的には入札日の決定、指名業者審査会の召集及び指名業者の選定、予定価格の決定、当日の入札執行でございます。入札執行後には結果を町長に報告をいたしております。

私に委任されておりますのは入札事務のみで、入札後の契約に関しましては、事務決裁規程及び財務規則に基づき執行をいたしております。

庁用物品の購入や工事等の契約発注にかかる最終責任は町長にございますものの、入札に関する事務につきましては、責任を持って私が執行させていただいております。

よろしくご理解を賜りますよう、お願いを申し上げます。

先ほどのご質問の中で個々にご指摘を賜りました、笹尾西小学校のプールについてでございますけども、これらの業者の選定につきましても、一般競争入札ということで条件をつけております。経営審査の点数がある一定以上の者である。プールの工事の規模が大きい部類に入りましたので、町内だけの条件ではなしに、四日市市にまで広げております。

その中で、ご指摘にありましたプールの排水管の修理でございますが、確かに排水管の接続箇所、プールからの排水を排水管に接続する場所が若干施工の時にズレたようで不具合が生じたということでございます。その修繕につきましては、トイレの水云々もありまして、緊急に処理をしなければいけないということで、町内の業者をお願いをしておるようでございますけども、それらの費用につきましては、あくまでも請け負った業者が負担したということ、設計業者のほうから私は聞いております。

第二保育園、笹尾東幼稚園のテラス等々の問題でございますけども、一つずつお答えをさせていただきますと、確かに514万円、幼稚園費と保育園費に分けて予算を計上しております。もともと予算の性質として、目的別に計上するということになっておりますので、保育園にかかる分、幼稚園にかかる分というふうに、予算上では明確にいたしております。ですからおっしゃいましたように、工事費としては合計の1,028万円という額でございます。

高い安いはまだ、るる議論があるところでございますけども、あれだけのものがございますし、施設的にも建築基準法上の規定をクリアしないといかんとということで、しっかりした設計をさせていただいたということ聞いております。そういうことから若干費用も高くなっております。

なぜそんなことが起きるんやということでございますけども、設計業者との協議は行っておりますけども、その段階でしっかりと協議をしてということで、もちろ

ん、しっかりと協議をさせていただいておるわけでございますけども、その中で、そういう問題が生じるということが理解できなかったといいますか、そういう必要性というの、その時点では考えなかったんじゃないかというふうに理解をしております。

設計業者との協議というのは大変重要なことございまして、形態、建物自体の形とか施工方法とかということで、それによって大きく費用も変わってまいりますので、これからもしっかりと協議をするように、各課に通知をして、そういうことができるだけないように努めてまいりたいと思います。

ただ、施工上、土木工事とか、そういうものも施工の途中で変更契約というのものも生じてまいりますので、その辺もご理解をいただきたいと思います。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 中村議員。

5番（中村 充男君） ありがとうございます。

私は入札とか、そういうことを言っているのではないのです。設計ができてきた時に、自分が使う身になって、ここにげた箱を置いたらひさしがない、靴が濡れるやろう。365日、晴天ばかりではない。そんなの役場の職員なら、みんなわかるはず。そういうのが次から次へ追加発注としてやっていく。福島第一原発の1号機のやり方と同じだと。

最近出た本に「泥のカネ」という本があります。町長、この方、だれかわかりますでしょう、そこからでも、あなたなら。ゼネコンにみえましたので。ここに東電、福島原発の闇を暴くと。ちょっとめくると書いてあるのです。書いた森先生、私の尊敬している先生ですが、「私は三重県桑名市へ向かった。3度目である。駅前のロータリーでタクシーに飛び乗り、城下町特有の狭くて曲がりくねった道を抜けて広い国道へ出た。そのまま10分ぐらい走ると、目指す建設会社の事務所が見えてきた。東名阪自動車道の桑名東インターがすぐそばにある」これからずっと始まりまして、これはフィクションではないのです。本当のことが全部書いてある。

こういうことが東員町のわずかな建物やバスを買う、そうした中に全部凝縮されている。一体だれが意思決定して、だれが発注して、だれがその責任を負うかということ、今後ともはっきりしていただきたい。

そして、笹尾西小学校のバンブーキッズのひさしでございますが、奥さんがみえて聞きました。これいつできましたかと。6月末に完成しましたと言われたんです。「いくらかかりましたか。」「いくらわかりません。先生がまもなく見えますから聞いてください。」30分ほどして先生に電話をかけてお聞きすると、35万円でできたというんです。

一遍現地へ行って見てください。笹尾のバンブーキッズが、例えば10メートルあったとしたら、それが35万円。幼稚園と保育園、3倍か4倍あるかもしれませ

ん。いくらL型に曲がっていても1,028万円。トタンの中に金粉でも入っているのかな、これくらい思うような金額の差、おかしいですね。

1億円の物を建ててひさしをつくるのに、1割以上のものがそこへ使われる。そんなこと、自分の家だったらあり得ますか。これは一度納得いくように説明をしていただきたい。

今日は前置きが長くて中身の濃い質問ばかりでございますので、これについてはもうここで終わって、次の問題に移りますが、端的にお答えいただきたいことと、そしてこうした闇のやり方、これは広報を通じてでも、町民の皆さんに納得していただけるような公表をしていただきたいということをお願いしたいと思います。

そして2番目の企業誘致についてでございますが、先ほどの藤田議員が、るる質問なさっておられましたが、私もあのハイブリッドパークなるもの、これはちょっと藤田議員と角度が違います。申し上げることは。

この企業誘致についてでございますが、先ほどの答弁で、町長は1日も早い工事の完了と企業の誘致を願っておると答弁された。そして議員からは強烈な申し入れをと、こういうことございました。私はその後に、申し入れと同時に、町の協力体制も必要だということをお願いしたい。

と申しますのは、先般、あるゼネコンと優良企業と思われる役員が現地を見にまいりました。そこへ進出したいということでございました。そしてその後、この役場へ訪ねられた。それはゼネコン、清水建設、業者はユアサ電器、今、ユアサバッテリー、GSユアサ、GSバッテリーとユアサが合併したような格好のバッテリーが出ております。この企業は優良だと私は思っております。これからハイブリッドカー、そして電気自動車、携帯の基地にも大きなバッテリーが必要だということで、来たにもかかわらず、対応された役場が、「あそこは保安林を勝手に切ってしまうし、いつできるかわかりません、これはあきませんぞ」という返答だった。町が協力してくれないのに、ああいうところは行けないということで、滋賀県に決定してしまいました。

私はあの石樽トンネル、開通を待ちに待っておりましたが、向こうからどんどん人がこちらへ来るのかと思ったら、こっちが向こうへ行ってしまう。出口かと思ったら入り口になってしまっている。これではだめだ。

以前にも大学の試合が、三重県下でも有名な陸上競技場を持っておるということで大会が開かれた。大学のほうから役場のほうへ電話があって、「昼、弁当を買うところがあるか」と聞いたら、「ありませんので途中のコンビニで買ってきてください」と。みんな暇で困っている業者がたくさんいるのに、そんな対応。途中のコンビニで買った弁当箱のからをほって、東員町はごみばかり。ごみ減量と言っている町長、どう思いますか。ごみだけほっていくんですよ。そのような対応の仕方。

マスコミやら外部の業者に対して、もっときちっとして、戦略室なら戦略室をつ

くられたのなら、そこで対応するというようなことをやらないと、優良企業、みんな逃げていってしまいますよ。

そしてあの長深地内にあるイオンタウン、ほったらかし。地主さんも3割程度もらっているからということで我慢してみえるかもわかりませんが、あれが稼働してきた、建物が建ったといったら、100パーセントお金がもらえるんです。そのお金で息子の家を建てようか、本家をやり直そうか、いろんな計画をしていますが、あのままではいつまでも金が入ってくるやわからん。町長に就任されて5カ月、一度でも中部マックスバリュへ出かけて、どうなっているかということをお話を聞きましたか。

そして山本病院の裏側、ここに5つほど、ABCDEという工場の跡地のようなものがあります。これは山本病院で多少よくなった人が、あそこで作業をする作業場だ。だから病院の施設みたいになっているけれども、実は製網工場だと。山本重工さんは頼まれてあれを売りたい。あそこへアイシン精機の子会社が入りたいということで見えたわけですが、あの辺の諸戸さんの土地やら山本さんやらという、公簿では100坪になっていても実効坪数は200坪、税金対策のためにいろいろ無茶苦茶。そして税務課長ともお話しさせていただきましたが、県へ申請を出そうと思ったら、評価証明がないとだめだと言われた。評価証明を取りに来たら評価ができないと。あそこへ進出したいという企業があるにもかかわらず、あれは東員町穴太なんです。それもだめやと。

いろんな問題があるかもしれませんが、町の当局としては、もっとそういう企業に親切に、できる範囲のことを力をかしたらどうですか。それは県へ言っていけ。県へ行くと、町が評価証明出したらと。走り歩いているだけで何もまとまっていけない。

私その業者に言ったんです。「そんなところ行かんでも、ハイブリッドパークへ来たらどうか」と言ったら値段が合わない。城山から下りていく道ですね、私、もう亡くなりました母親でございますが、「今日は手が痛いので東員病院に連れていってくれ」と、車でうちのしわくちゃのおばあさんを乗せていきますと、病院につくまでに、うば捨て山へ行くのかなというようなガサガサの道。あれは、今、藤田議員が言われた大丸開発でございますけれども、東員町に来ている図面を見ると、あそこができたときには、あの道もピシッとやるということになっている。ところが業者が決まらないのでなかなか進まない。月400万円の金利を払っている。月ですよ。3年になると1億5,000万円。これはなかなかできていかない。個人の業者が開発しておっても、東員町発展になるためなら、働く場所ができる、税金もいただける、まちもきれいになっていくというのなら、もっと我が東員町が開発しているつもりになって協力すべきだと私は思いますが、いかがでしょうか。町長、お答えください。

議長（山本 陽一郎君） 水谷町長。

町長（水谷 俊郎君） 中村議員のご質問にお答えをさせていただきます。

基本的なことを私からお答えをさせていただいて、細かい補足を担当部長にさせたいと思いますので、よろしくお願いします。

企業誘致に関しましては、その窓口業務につきまして、企業の担当者やゼネコンの開発担当者等がご相談にお越しになった。その時には、その希望されます内容を十分にお聞きし、適切な指導・助言を行い、関連課での迅速な対応がとれるよう、庁内の連携強化を図り、企業誘致に積極的に取り組んでおります。

また、企業立地に関する研修会等に職員を参加させ、業務が適正に行えるよう、職員の資質向上にも努めております。

今後も地域経済の活性化と雇用創出の確保を図るため、企業誘致活動を展開し、優良企業等の立地を促進するとともに、新たな企業の誘致を行うための啓発や相談機会等の拡充及び情報提供の充実など、支援体制の強化に取り組んでまいりたいと思います。

先ほどのイオンに関しましては、開発行為が行われて、建物は、あとまだ2～3年先だという情報を聞いております。イオンの開発部長とはお話をさせていただきましたが、やはりそのようなお話でございました。これは、少しは東日本大震災の影響もあろうかというようなお話もございましたことを、付け加えさせていただきます。

最後の昔の山本大仲病院の近くにある土地についてのお話をお伺いしましたけども、あくまでも開発許可を出すのは県でございまして、評価証明を出せと言われても、事実が確認できないものに関しまして、行政といたしまして、ないものがあるということを出すわけにはまいりません。これにつきましては、県がこういう状況の中で開発してもいいよということをおっしゃっていただければ開発できると私は考えております。県とも、そういう件がまたございましたら、協議をさせていただきますと思います。

残余の件は部長に答弁をさせます。

議長（山本 陽一郎君） 建設部長。

建設部長（藤井 浩二君） ご質問の中の、まずハイブリッドパークの件でございまして、ご指摘の、ゼネコンと優良企業が本町へお越しになってご相談をいただいた時の本町の対応は、ということでご指摘をいただきました。ご質問書をいただきました時に、私といたしましては、担当課に調査もさせてはいただきましたが、ハイブリッドパークの開発の前にそのような話があったとはお聞きをしましたが、近々の話ではないようでございました。

また、町長からもご答弁をさせていただきましたが、私ども、そういうご相談があれば、ご指摘をいただいたような対応はさせていただきますのでおらんのじゃないか



なというふうに思っております。

最近のハイブリッドパークを開発されております不動産会社の社長さんと町長も会っていただきまして、現状のお話もいただいております。あくまでもお話の中では、近隣の優良企業と現在お話をされているとか、土地の価格の問題とかというお話をお聞きしました。私どもとしては、ぜひそこと契約ができるといいですねということ、町長のほうから言っていたように、7月26日でございますが、会っていただいております。

また最後に大仲さつき病院の件で、今、町長からもご答弁させていただきましたが、この件につきましても、町長と直接、社長とお会いしていただきまして、その方向性についてはご納得をいただいて、当日はお帰りいただいたというふうに私は記憶をいたしております。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 中村議員。

5番（中村 充男君） お言葉を返すようですが、イオンタウンは東日本大震災の影響かなというのは個人の見解ですね。今、ジャスコイオンはアジアのほうへコンビニの体制をもちまして、シフトは海外へ向かっているんです。だからほっとしているんです。

もっと徹底的にやらないといけない、このように思っておりますが、町長のブログ、最初から昨日まで、これだけあります。全部一字一句読ませていただいておりますが、5月12日、これからのまちづくりは企業誘致でもなければ、大きなショッピングセンターを引っ張ってくることでありませんと、このように書いておられる。これだけぶれるにぶれる。それだけぶれたら、私の肩の上に乗ってもらうと、僕の肩こりが治るのかなと思うぐらい、これほど言ってることと、ここへ書いていることが違う。

そして先ほども言われましたが、ガラスハウスの件もそうでございますけども、もっと真剣な企業誘致に向けて努力をいただきたい。

次に入らせてもらいますが、町行政の情報発信について、3つ目でございますが、町長が就任されて、いろいろ目立つ、こういうブログをやっておられる。ホームページからずっとクリックしていくと町長のページが出てくる。ここの14名の議員で、希望者だけでも町長の先とは言いません、後で中村充男、何々、どこどこ出てくるように考えられませんか。希望者だけでも載せるということであれば結構ですが、町長だけということであれば、ブログは、私はアナログ人間でわかりませんが、町長やらツイッターって、何を書いてもいいと、こう言われるんですが、町長の活動内容とか、いろんなところへ行きました、城山の祭りに行ったらこういうサプライズがありました、そういうことなら結構ですが、ガラスハウスに反対したのが現場を見てないやつだと。現場を見てないのは町長ですよ。もう何年も

前から、あそこを有効活用しよう、どういうことにするか。見たことない人、一遍ここで手を挙げてもらってください。だれもいない。

しかしこういうことがある。暗闇の中、一遍歩いてください。近所で一匹犬がほえると、あちこちの犬がワンワンからオーと言うまで、一犬ほえれば万犬ほえる、こういう言葉があるのです。町長がブログで間違った発信をされると、そうやわな、町会議員もいかげんや、何も見とらんとって反対したらあかんわな、こういうふうにみんな思われる。

そして先ほど伊勢新聞でございますが、トップ記事ですよ。私は言ったことがないと言われるけれど、トップ記事に言わないことを書いて、新聞社の責任にする。今まで我々の議員の中でも学歴が間違ったことを書いていた。本人にただすと、新聞社が間違った、それで終わっているけれども、新聞社は言われたことを書いているんであって、そんなことは絶対にない。そういうことを言わなければ書かない。もしごろつきないいい加減な新聞社なら、今ごろないですよ。私はそう思います。新聞社に責任をなすりつけるようなことなく、自分はこういう気持ちで、こう言ったんだということをはっきり弁明する。

これは東員町だけの問題ではない。しかし私も町長に立候補しようかなと思った時があるんです。その時は東員駅と穴太駅を通過してもらって、東員町からの金はまだ出さんようにしようかなと、私自身思いました。2億円もの金、もったいない。町は町独自で、もっとすばらしいことができるんじゃないか。同じ考えだけれども、皆さんのコンセンサスを得てない。菅総理と一緒に、思いつきで話をして、言った言わない、そんなことに時間を費やす余裕はありません。これは一生懸命やっている人、「乗って残そう北勢線」なんてうちわまで。みんなこの記事を見たら、余計汗が出てきますよ。

これはやはり町長、今まではいい。町長という立場になったんだから、もう我々より一段も二段も上、そうなったときには、今までと同じようなブログを書いてはいかん。もっと品位のある言葉を書いてほしい。これは町の発信なのか、個人の発信なのか、わけがわからない。

先ほどちらっと謝ったのか謝っていないのか、ご本人、「上原が朝市で出店、その時町長は」こんなビラがまかれました。私これを読んで、あの時にもいろいろ怒ってみえたから、それでも腹の虫がおさまらなくて、こういうふうにした。それでもおさまらなくて、今日言ったということでございますが、町長、見てください。町長というのは町の長と書くんです。長の町になってます。それは、あんたはもっと上なんですよと、頂上ということの意味が頭にあるから、こういう間違いを起こしてしまった。僕はそう思っています。

昔に、時の町長、中村敏和町長でございましたが、ある議員が、加藤薫さんというんですが、中学校の給食をどうするかという質問をした時に、町長は、「あなたは

ゲートボール場で私を非難したから、それには答えられません」と、こう言われたんです。ゲートボール場で非難されたことで、議会で中学校の給食について質問しているのかかわらず、あなたの質問には答えられないと、一時中断してしまいました。議場で謝れと。私はあの時、たった一人、謝る必要はないということと言ったんですが、その時の議長でございました亡くなられた山川さんという方が「頼むに謝ってくれ、議会が進んでいかん」、こういうことで加藤さんはこの場で申しわけありませんでしたということ言われた。

これは逆バージョンでございますが、外であったことを議場に持ち込む。議場内でやったことを外で非難をする。皆さん、一般の人が知らないところでそういうことを言われたら、町長にあかんわな、九分九厘の人がそう思うんです。ですから、あなたはもう今は水谷俊郎じゃないんです。東員町長として認識を持っていただいて、これからの言動をしていただきたいと思いますが、いかがですか。

議長（山本 陽一郎君） 水谷町長。

町長（水谷 俊郎君） 町行政の情報発信という通告をいただきまして、それについて、お答えをさせていただきます。

私は町長就任以来、4カ月が経過いたしました。この間、町民の皆様からご意見をいただき、職員とともにいろいろなことに取り組ませていただいております。

私のマニフェストでは、生ごみの堆肥化をはじめ、可燃ごみを極力なくしていくことによりごみの減量化、親亡き後を見据えた雇用ではなく、仲間同士と一緒に働ける障がい者の働く場の確保、本当に困ってみえる町民の皆様を目線で考える新しい交通システムなどの検討を行っております。

また広域的課題では、平成25年に関係市町と、先ほどもご指摘いただきましたような三岐鉄道との間で結んだ北勢線の運行に関する約束の期限を迎えることとなります。それによりまして、北勢線継続運行への対応の検討を行っております。

また、私の就任以前からの検討課題といたしましては、これも先ほど出ておりますハイブリッドパークの開発、現在閉鎖しております粗大ごみ処分場に関する諸問題、東員インターチェンジ建設に伴う諸問題、保安林の伐採など、不法行為に対する案件につきまして、多くの皆様のご助力をいただきながら対応をしているところでございます。

これからも私がひとり歩きするのではなく、町民の皆様と一緒にあって、この町の将来や町民の皆様のための行政運営を心がけてまいりたいと考えています。

議長（山本 陽一郎君） 中村議員。

5番（中村 充男君） 全くロンドンで質問したことが、パリで答えられているような状態でございますが、まとを得ておりませんが、これはひとつ情報発信ということでお聞きいただけますか。

去る6月議会において、町長は副町長を二人にしたいというようなことを、あな

た思われましたね。そして議員を一人一人根回しされた。我々は、自分の給料を2割カットしようというぐらいの行財政改革をしようとする人が、副町長を二人にするということになると、1,000万円も1,500万円も余分にかかってくる。何を考えているんだ。いろんなことで、あなたは共産党まで町長室に呼んで説得しようとした。だれの指図かわかりませんが。しかし我々はその情報を早くからキャッチして、徹底的に抗戦をした。その結果、議題に乗らなかった。

そしてこの情報発信ですね、間違っておりませんか。人事の案件なら、こういう立派な人だから、東員町にこういう助けをいただくので、ひとつ頼むと皆さんに言ってから説明するべき。それを一部の議員だけ集めて言い、これでは賛成には1票足りないので、これとこれをひっくり返そうか。そんな小細工やめなさいよ。正しいことであれば、我々も賛同します。

そして残念なことは、私、その方のことも調べさせていただいた。あるところへも行ってまいりました。立派な人材で東員町にすばらしいなと思う方が、やり方が悪いために、この人材がだめになってしまう。これがまともに残念なことです。

議会のトップと行政のトップで根回しをする。あなたは先の議会で、行政と議会を車の両輪のごとくだとおっしゃいましたね。ところが上原さんの問題、議員は何も知らんから反対したんだというようなこと、片方の議会というところの対応を、ブツブツ千枚通しで突きに来ているのではないですか。車の両輪と片や言うておきながら、議会非難をブログでやる。現場で本人に名指しでものを言う。お礼を言うならともかく、そういうことをやっているということは、議会と行政が両輪のごとくいかないです。これは謙虚に反省をしていただきたい。

これから長いんです。これからなんです。私たちは来年1月末にもう終わってしまうんです。だけどこれから東員町を引っ張っていこうという人が、姑息な手段でやっておってはいかん。町民のために、だれもが公平公正、これはみんながよかったなと思えるところにしていきたい。

こんな時期だからこそ、強いリーダーが求められるわけですが、私はこの東員町の水谷俊郎町長としては、強いリーダーというよりも、心あるリーダーになっていただきたい。

そして最後の質問、あと7分間ですが、安心・安全のまちづくりについて、町長並びに教育長にお尋ねをいたします。

東日本大震災に見た、先般も東北のほうへ行かれたという報告も聞きました。そして7月25日の豪雨では、私どもの地元、六把野でも、六把野、穴太で家屋の浸水被害が出ました。

ちょうど私、自分の店のご予約の方をお迎えに、マイクロバスで町内を走っておりました。水の中で煙を上げて、とまっている車があちこちあった。かわいそうにと思っても、引っ張ってあげるわけにもいかない。

こういう地震もさることながら、今回の台風12号で見た、ああいうことが団地の造成のほうで切土・盛り土、いろいろある中で、こういう事故が起きないように。そして教育長には、神田小学校で藤川で事故が起きました。大水が、一たん水が来た。子どもが10人ぐらい流された。私も自分の孫が流されて靴もないと泣いておりましたので、自分の孫が入っているから言ったのだと思われるといかんで言わなかった。ところが、あちこちの議員さんから、おまえ知っとるか、町民の皆さんからもこういうことがあったんやと。私たまたま富山へ行っておりました、そんなに上で雨が降ったんかなと思っておりましたら、この流水騒ぎでございます。

その後、どういう手を打たれましたか。教育委員会へ行った人が、もう済んだことやでいいやんかな。あるところへ行ったら、そんなところで授業をするというのはおかしいわな、こういうことでございましたし、ある課に行ったら、ええ、そんなことがあったんですかと、役場の職員でも知らない人がいる。

これは自然と直接触れ合うフィールドでもありますし、豊かな生き物が環境をどう守っているかという大切な教育の一環でありますから、やめるわけにはいかないと思いますが、飛騨川とか黒部のほうへ行きますと、サイレンが鳴ったら川から出てください、そんなようなマニュアルができておりますけれども、そういうことをやられましたかどうか、お尋ねをしたいと思います。

議長（山本 陽一郎君） 水谷町長。

町長（水谷 俊郎君） 時間がありませんので、もう簡潔に答えさせていただきます。

私、この間、お盆明けに、宮城、岩手のほうへ行かせていただきました。私どもの職員を派遣した多賀城市の市長にもお見舞いを申し上げ、ごあいさつもさせていただきました。

そこで私が思ったのは、こういう甚大な被害が起こったときに避難所ができます。避難所のマニュアルというものをつくっておかなければいかなんということを感じました。それも長期と短期に分けて、段階的にいろんな問題が出てきておりますので、それも伺ってきました。それに従って、マニュアルの検討もさせていただきたいというふうなことを思っております。それが1点です。

それと当町で心配なのは、まず津波というのは考えにくい。逆に上から下りてくる水はあるかと思えますけれども、地震に対しましては、やはり流動化ですね、それと、ご指摘のように盛り土の地点の対策ということだと思います。それにつきましては、これから当町といたしましても慎重に調査をさせていただいて、それをもとに対応を考えさせていただきたいというふうなことを思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） 神田小学校の事故に関して、1点だけ言わせて

いただきます。

私どもが事故の第一報を聞いた時に、教育委員会では全神経を集中させて、学校と協力しながらその対応を協議し、考えたつもりであります。学校側は事態の早急な把握、それから適切な事後対応をどうするか、例えば子どもの健康状態の把握、校医健診を特別に行ってもらう。心の傷というのがありますので、スクールカウンセラーというのを東員町で配置をされておりますので、そのスクールカウンセラーを要請して、いつ神田小学校へしていくか。

それから保護者へきちんと事実を説明し、どういう理由で、どういうことがあったのかということの説明しないと、だれだれが聞いたとか、うわさ話とか、でま話ばかりで、きちんと事実が伝わらないと。そういうことのないようにということで、緊急に保護者の説明会を学校側はするということで、それを受けて、そういう相談を受けました。それはいいと。そういう形できちんとした事実を保護者の方に説明してくださいという話をしました。

そしてまた同時に、この事故を対岸の火事にしない、自分とこだけ、よそでやったことではないと、自分ところも、このような危険性があるんだということを認識するために、緊急の校長会、園長会を行わせてもらいまして、経緯と、どういう形で、どういうことが起こったかというのをきちんと確認しました。

もちろん、今後ともいろんなことがあると思いますし、難しいことがあると思いますけれども、先ほど言われました、もう済んだことやでいいやんか、私どもとしては、そんな緊張感のない発言は出るはずもないと思っております。ですから明確に否定をしていきたいと思っております。

ただ、私どもは今後とも、子どもたちの安心・安全のために危険予知能力、これは高めないとあかんと思っております。私たちの想定外のことがいっぱい起こることがたくさんありますので、そのことに向けて研究・研修、そしていろんな周知をしていきたいと思っておりますので、よろしくご理解をいただきたいと思っております。

以上でございます。